

2022年度 事業報告書

自：2022年 1月 1日
至：2022年12月31日

公益財団法人 日本国際医学協会

1、理事会・評議員会開催

第1回理事会	2022年 2月 3日 (木)	Zoomミーティング
第1回評議員会	2022年 2月17日 (木)	Zoomミーティング
第2回理事会	2022年12月 8日 (木)	Zoomミーティング

2、国際治療談話会例会開催

当財団の起源である医学談話会は、医師生涯教育の先駆けで、大正14年3月10日に発足し、昭和30年9月以降は国際治療談話会例会の名のもと既に450回以上開催されている。本例会はメインテーマのもと各専門家にそれぞれの領域の最新知見を講演していただいている。創立者石橋長英は、当時すでに専門別に細分化されつつある医学を統合する必要性を感じ、基礎医学と臨床医学の縦の連係と、臨床各科の横の連係の双方から学習することを目的とした。

さらに、医療に携わる人は病める人と向き合う上で、医歯薬以外の幅広い見識が求められるという創立者の理念に基づいて、昭和43年（第91回例会）から始まった医歯薬界以外の名士による「感想」は、当財団独自の講演であり全人的医療の推進に役立っている。国際治療談話会は医師のみならず医療関係者に対して、生涯にわたる総合医学教育の場として定着している。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の流行によりZoom Webinarを使用したWEBでの開催となった。

今年度例会の内容は以下の通りである。

2022年国際治療談話会例会一覧

(1) 第452回 国際治療談話会 例会

日時	2022年1月20日 (木)
会場	WEB講演
座長	永井良三
テーマ	リンと健康・慢性腎臓病 ＝慢性腎臓病と心血管合併症 自治医科大学 内科学講座腎臓内科学部門 教授 長田太助 先生 ＝リンが腎臓の老化を加速する 自治医科大学 分子病態治療研究センター 抗加齢医学研究部 教授 黒尾 誠 先生
感想	＝近年のイノベーション事例から見る バイオベンチャーとイノベーションエコシステム 国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー／ユニットリーダー 島津博基 先生
出席者	55名

(2) 第453回 国際治療談話会 例会

日時 2022年3月17日 (木)
会場 WEB 講演
座長 山崎 力
テーマ 心血管領域の新しいカテーテル治療
＝非手術適応慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する
新たな治療法の確立
国際医療福祉大学 成田病院循環器内科 教授 杉村宏一郎 先生
＝卵円孔開存のカテーテル閉鎖術
国際医療福祉大学 医学部循環器内科 主任教授 河村朗夫 先生
感想 ＝アバターロボット “ugo (ユーゴー)” が切り拓く
未来のワークスタイル
u g o 株式会社 代表取締役CEO 松井 健 先生
出席者 35名

(3) 第454回 国際治療談話会 例会

日時 2022年5月19日 (木)
会場 WEB 講演
座長 谷口郁夫
テーマ 医学生の共用試験 (CBTとOSCE) の公的化
＝医師養成一貫性の視点からみる臨床実習前OSCEの
公的化
社会福祉法人聖隷福祉事業団 顧問 清水貴子 先生
＝医学生に課せられる共用試験
公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
副理事長 齋藤宣彦 先生
感想 ＝日本の厚生労働省及び社会保障の現状と課題
東レ株式会社 取締役
株式会社日本ヘルスケア総合研究所
ヘルスケア政策・産業調査研究室 上席研究員 二川一男 先生
出席者 47名

(4) 第455回 国際治療談話会例会

日時 2022年7月21日 (木)
座長 近藤太郎
形式 WE B 講演
テーマ 排泄にかかわる話題
＝腹部X線から推測する慢性便秘症の病態とその治療―世相の影響―
国立病院機構 久里浜医療センター
内視鏡検診センター内視鏡部長 水上 健 先生
＝頻尿と尿失禁の治療
東京女子医科大学附属足立医療センター
泌尿器科 骨盤底機能再建診療部 教授 巴 ひかる 先生
感想 ＝ウクライナ戦争と今後の世界
公益財団法人 笹川平和財団
主任研究員 畔蒜泰助 先生
出席者 53名

(5) 第456回 国際治療談話会例会

日時 2022年9月15日 (木)
座長 市橋 光
形式 WE B 講演
テーマ 超音波医学―POCUSから最先端技術まで―
＝POCUS (Point of care ultrasound) の臨床活用
～病院から診療所、そして在宅・地域へ～
紀美野町立国保国吉・長谷毛原診療所
所長 多田明良 先生
＝ナノバブルを使った超音波遺伝子治療の新展開
福岡大学医学部解剖学講座
主任教授 立花克郎 先生
感想 ＝音楽は時間に咲く花
ピアニスト、音楽プロデューサー 甚目裕夫 先生
出席者 39名

3、国際治療談話会総会開催

本総会は昭和36年より毎年1回11月に開催し、例会同様に総合医学教育を実践するだけでなく、医学を通じた国際交流に寄与するため、随時海外の医学者を招待し最新知見を取り上げている。総会においても医歯薬以外の名士による「感想」講演があり、講演会終了後の懇親会は国際医学交流並びに会員相互の親睦、情報交換の場となっている。また、平成14年度からは創立者石橋長英の名を冠し、石橋記念講演を開催している。これは、日本で活躍中の海外からの若手医学研究者を奨励する医学講演であり、国際医学交流の普及に貢献するため毎年開催している。

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、WEB講演での開催となった。

今年度総会は以下の内容であった。

第62回国際治療談話会総会

日時	2022年11月17日（木）
座長	石橋健一
テーマ	がんと糖尿病のゲノム医学の進歩
感想	＝G7の展望：グローバルヘルスにおける日独のパートナーシップ ドイツ連邦共和国大使館 東京 ティモテウス・フェ 厚生労働参事官 ルダー＝ルセッティ 先生
講演Ⅰ	＝がんゲノム医療の将来展望 国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長・総長 中釜 斉 先生
講演Ⅱ	＝糖尿病のゲノム医学の進歩 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 院長 門脇 孝先生
出席者	63名

4、国際医学交流

医師生涯教育に並んで当財団の主要な事業に国際医学交流がある。国際医学交流は伝統的にドイツとの間で盛んに行われ、過去に多くの医師や研究者が当財団を通じて交流を果たしてきた。また、これらの交流は市民まで広がり、栃木県の下野（旧 石橋町）とディーツヘルツタール（旧 シュタインブリュッケン）、群馬県の草津と日本近代医学の父 ベルツ博士生誕の地ビーティヒハイムビッシンゲンのように市姉妹都市締結にまで至った歴史がある。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の流行により、国際医学交流を推進することは叶わなかった。

5、会報(International Medical News)発行

インターナショナル・メディカルニュース（IMN）を隔月刊行する。

本誌は例会並びに総会講演抄録の和英両文からなり、全会員および医学関連機関・国立国会図書館に配布され、当協会ホームページから随時、閲覧できダウンロードも可能である。

わが国の医学医療の現状を紹介すると共に、国際医学交流に活用され今年度は下記の通りに発行した。

インターナショナル・メディカル・ニュース（IMN）

第509号（2021. 11. 18総会）～第514号（2022. 9. 15例会）非売品

6、報告事項

(1) 石橋理事長

安倍、エマニュエル両名誉会長 歓迎会

日時：2022年6月1日(水)

場所：ホテル グランドハイアット東京

デュッセルドルフの夕べ

日時：2022年9月14日（水）

場所：ホテルニューオータニ東京

ドイツ統一記念日レセプション

日時：2022年10月4日（火）

場所：駐日ドイツ連邦共和国大使公邸

NRW Japan Fireplace Talk（炉端会議）

AIが医療クリニックにもたらす機会：エッセン大学病院の事例

日時：2022年10月24日（月）

場所：東京アメリカンクラブ

第59回エルウィン・フォン・ベルツ賞贈呈式

日時：2022年12月2日(金)

場所：駐日ドイツ連邦共和国大使公邸

(2) 伊藤公一常務理事

記載報告なし

(3) 近藤太郎常務理事

記載報告なし